

平成25年度 第2回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 日時、場所

平成25年11月28日(木)15:00～17:00 東北森林管理局第3会議室

2 出席者

【委員】

黒瀧委員、向中野委員、澤田委員、高橋委員、庄子委員、飯島委員、菊地委員、
山形県森連太田委員が欠席のため、同県森連中村部長がオブザーバーとして出席

【東北森林管理局】

次長、資源活用課長、企画官(供給戦略担当)、企画官(木材需給対策担当)

3 結果

量的な供給調整は行う必要性はない。ただし、現在の一般製材用原木不足・高騰の状況に対応して、一般材比率が高まるような採材を推進する。なお、価格上昇があまり見られないスギ合板用材等については、販路の拡大を検討する。

4 主な意見

(国産材需給)

- 合板材以外のすべての品目で丸太の供給が注文に追いついていない。スギ3.65m、24～28cmの引き合いが強い。入札では中目材が15,000円/㎥を超える価格で取引。
- 県森連として原木不足による製材用原木価格の上昇を受け、系統も含め生産量を増やすよう指示している。生産意欲が出てきたが、合板用材が値上がりすればさらに生産意欲が高まる。
- 関東、福島県向け梱包材の販売量が前年同期比で15%増。
- 原木、製材品も入荷は減っているが、販売は逆に増えている。そのギャップで困っている。ホワイトウッドの価格が下落している。山元還元を考慮してラミナ・原木共に買い取り価格を上げ、資材確保に努めている。
- 各合板工場・製材工場から原木の注文があるが、8割程度しか応えられていない。沿岸地域で高台移転等の復興関連作業に人がとられ、トラックも不足していることが一因。
- 首都圏における消費税駆け込み需要が多いので、販売価格が上がっている現状にある。
- 合板用のカラマツ価格が急騰している。ある程度量が集まると高い価格を提示してくれる場合がある。
- 今年度は年明け1月が需要のピークで、それ以降は落ち着くと考えている。

(他地域への輸送、輸出)

- 中国に14cm以下のスギを5,000㎥輸出。今後中国向けに輸出を検討しているところ。B材の4mについては、西日本からのオフアーも多く海上輸送することで有利販売できる場合もある。
- 関東方面から原木の引き合いが強い。北海道からのカラマツ原木の入荷が減少している。

(木材利用ポイント)

- 木材利用ポイントが4%位しか進捗していない。工務店にメリットが少ない割に事務負担が多いことを考慮して制度を設計してほしかった。
- 田舎は地方紙を読んでいる人が多いが、地方紙に宣伝を載せられず、周知徹底がなされなかった。